

球児の夢に託して

市川市少年野球連盟会長

浮谷 貞雄

市川市少年野球連盟創立十周年を迎えるに当り、ご挨拶申し上げます。

今から十年前の昭和五十五年、私は長い伝統と歴史を持つ市川市少年野球の組織化に伴い、市川市少年野球連盟の会長という重責に就かせて戴くことになりました。

それまで、少年野球は学校や地域子ども会等が中心となって活動しておりましたが、市内各地区の交流や相互の友情の活性化、併せて指導者の研修を推進して正しい安全な野球の普及、大会運営の責任体制の確立を望む声が高まってまいりました。

野球を通じての心身の研磨は勿論のこと、フェア精神と規律の体得と、選手相互の親睦を図ることは、二十一世紀を担う少年に対する私たち大人の責務ではないかと思えます。これらの諸事情を鑑み、諸先輩のお知恵を拝借し青少年の健全育成活動の一環として、昭和五十五年二月十七日に「市川市少年野球連盟」の発足の運びとなりました。

十年の歳月は早いもので、関係者の並々ならぬ努力のお陰で参加チーム数も年を追うごとに増加し、市内全域に亘り熱戦を繰り広げております。

この間、市川市少年野球連盟では少年たちの視野を広めるべく、昭和五十七年に友好姉妹都市である米国ガーデナ市、昭和六十年に中華民国（台湾）へ遠征。昭和六十三年には同名町である山梨県市川大門町へ遠征を実施致しました。

無心に白球を追う少年たちのプレーには心を打たれるものがあります。日々の鍛練を通して培われた精神力、技術をすべて発揮できるような大会運営に心掛け、ゆたかな心たくましい体の青少年育成に今後も努める所存であります。

連盟創立に際してご尽力戴いた市川市教育委員会、子ども会育成連絡協議会、青少年相談員連絡協議会、PTA連絡協議会を始めとした諸団体の方々、また発足から企画運営に携わって下さって戴いた方々、そして連盟の活動にご支援、ご賛助戴いた関係者の方々に厚く感謝申し上げますと共に、今後の市川市少年野球連盟においてもなお一層のご理解を戴けますよう重ねてお願い申し上げます。



結成10周年を祝して

市川市長

高橋 國雄

「市川市少年野球連盟」の結成10周年を心からお祝い申し上げます。

この10年間の、浮谷会長さんをはじめ役員の皆様が果たされてきた本市少年野球の健全育成へのご尽力とご功績に対しまして深く感謝を申し上げます。

今日、わが国における野球の隆盛はまことにすばらしいものがありますが、これを支えている要因の一つに、全国各地で盛んに行われている少年野球の活躍があります。

本市においても例外でなく、各地域の自治会や子ども会を単位として数多くのチームが誕生し、その健全育成を目的に「連盟」が結成されたのでした。

私は日頃から、「スポーツは、ルール、マナー、フェア、そしてファイトである」と申しておりますが、野球については特にこのことが当てはまると思います。

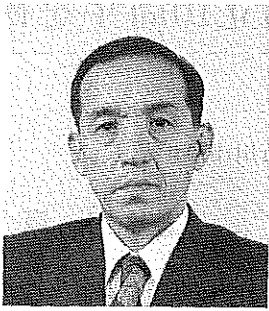
一人ひとりがチームの一員として責任を自覚するとともに、失敗もまたみんなで分かち合うことを通して、人間社会の厳しさと喜びを自ずから身につけることが出来ます。

野球という一つの世界の中で家庭や学校では教えられない何かを得るということは、彼らにとってまことに貴重な体験だと思います。

「市川市少年野球連盟」のみなさまは、こうした子ども達の得難い体験の良き指導者として、10年間の長きにわたり創意と工夫をもって運営に当たってこられたのでありまして、そのご努力と情熱に深く敬意を表したいと思います。

「連盟」のみなさまにおかれましては、この10周年をひとつの節目として、今後とも本市少年野球の健全育成のためご尽力賜りますようお願い申し上げます。

「市川市少年野球連盟」のますますのご発展とみなさまのご健勝を心から祈念申し上げましてお祝いのごあいさつといたします。



献身に感謝して

市川市教育長

山口 重直

星霜流ること矢の如し、と申しますが、すでに10年の歳月を刻んだのですか。

市川市少年野球連盟の発足以来の、数多くの方々のご苦勞に敬意を表するとともに、ここに心からお祝いを申し上げます。

先頃、海外青年協力隊の一員として、リベリア共和国に派遣されている東裕之君という教師から、長文のお手紙をいただきました。

昨年来、1年2か月間にわたる活動の報告ですが、極度の貧困に喘ぐアフリカには、でも“人間の心”がある。先進大国日本は、リベリアと比較にならない物と金の豊かさをもっているが、先進国病ともいえる“心の病い”がある、と結んでおりました。

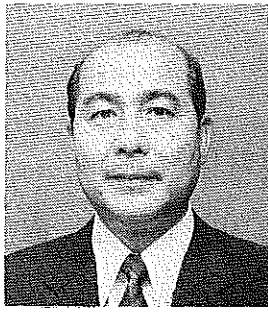
でも、その日本の少年たちに、魂の清らかさ、肉体の強靱さを育てようと、献身する大人たちがおります。文化活動にスポーツに…………。

少年野球連盟に所属する、地域各チームの監督、コーチ、育成会の方々がまさにそれです。利害や打算、お金もうけのためにだいじな時間をさいているのではなく、真実子どもたちを思っている活動なのですから。

組織を束ねる役員の方も、たいへんな苦勞をされている筈です。

私たちの生きているこの時間は、過去から未来へと続く、悠久の時の流れを想うなら、ほんのワンポイントにすぎません。けれどもワンポイントの積み重ね「継続」の中で、歴史や伝統がつくられていくのですね。

市川市少年野球連盟の結成に参画された方がた。今日までの実績を支えてくださった人びと、さらに今後の発展充実に寄与せんものと燃えている多くの同志皆様に、敬意を捧げ、輝かしい未来を待望して、ごあいさついたします。ありがとうございました。



市川市少年野球連盟の創立10周年を祝して

市川市議会議長

芝田 康雄

市川市少年野球連盟が創立10周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

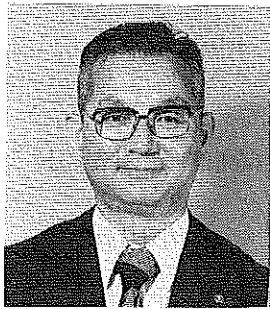
昭和55年2月に発足されて以来、今日まで少年野球を通してフェア精神と規律の体得及び青少年相互の交流により、次代を担う青少年の健全育成にご尽力いただいております。浮谷会長さんをはじめ関係各位の皆様方に対しまして、厚く感謝申し上げます。

この10年間、連盟におかれましては青少年健全育成のため「正しい安全な野球の普及」と組織運営の強化並びに監督・コーチ等皆様方のご努力により、東葛地区少年野球大会において毎年優秀な成績をおさめられておりますことはご同慶にたえません。

ご承知のとおり、近年の社会情勢の変化と生活様式の多様化に伴い青少年のスポーツも同様に野球・サッカー・バレーボール等々幅広く、中でも野球は春夏の高校野球に象徴されるとおり最も人気の高いスポーツであります。皆様方には、このチームワークを至上とする野球を通して健全なスポーツ精神と心身の鍛練により明るく健全な青少年の育成について、この10周年を節目として更にご尽力をいただきますことをお願い申し上げます。

市議会といたしましても21世紀を担う青少年を「豊かな心・たくましい体の子ども」として育むため、市と一体となり今後とも努力してまいりたい所存でございますので、どうか連盟の皆様方におかれましてもより一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、市川市少年野球連盟の今後ますますのご発展と皆様方のご健勝を祈念申し上げます。お祝いのことばといたします。



祝 辞

市川よみうり新聞社長

加 藤 和 紀

緑の大地と青い空。そして、舞う白球……。土と芝の香りが漂う広いグラウンドも、青く澄んだ空も、近年あまり見かけなくなった。それでもいつの時代にも野球好きな少年たちはいる。そして、それ以上に、野球を愛し続ける大人たちがいる。

「一生好きな野球をやりつづけていたい。そんな唐変木が野球界にはごろごろいるらしい」 井上ひさし氏がエッセイにこんなことを書いている。唐変木とは、気の利かないやつだとか、偏屈な人物に対する罵けりの意味が込められている。だが、井上氏は愛情を込めて語っている。

市川市少年野球連盟10周年の歴史を支えてきたのは、まさに、多くの唐変木たち。生半可なことでは出来ない、青少年の健全育成。言葉では簡単だが、実践は難しい。それだけに、発足当初から今日まで、連盟の先頭に立ってこられた浮谷会長はじめ、多くの唐変木に改めて敬意を表し、これからもより一層の尽力を望みたい。

人間が幼いころに身をもって学んだ経験は、人生の糧となるもの。だからこそ、指導にあたる大人の責任は重大。10年を振り返ってみれば、ときに大人のエゴがみられる場面もあったはず。

しかし、ひとつひとつを乗り越えて、今日の発展を迎えたことは、たゆまぬ英知と強い連帯感をもたらしたものと賞讃するほかない。役員はじめ、関係者はこのことを忘れずに、さらなお10年、20年へと向かって躍進していただきたい。

また、いまは自分たちの野球を楽しんでいる選手たちの中から、一人でも二人でも多くの立派な指導者が育ってほしい。頑張れ若い力。



10周年記念誌

東京新聞 市川支局長

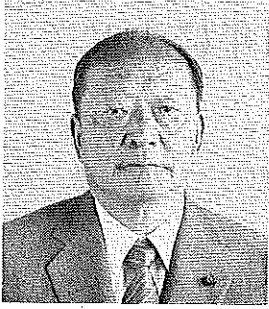
小山松 滋

連盟がスタートして早くも十年を迎えたことを知りうれしい。ひと言で十年と言ってしまえばそれまでだが、十年ひと昔を、今、感慨込めて思うのは私ばかりではないだろう。

そう、今年、元気にプレーした少年たちの大半が連盟発足当時、生まれたばかりの赤ちゃんだった。また当時、選手として活躍した子供たちは既に成人となり、社会の一員としてさまざまな部門で活躍していることだろう。

当然ながら裏方さんたちも十歳、年輪を加えた。しかし、ちびっ子たちに負けずハツラツとした活躍で大会を盛り上げ、子供たちを導いている。こうした方々の後ろ姿は、子供たちに何かをもたらすに違いない。特に地域でチームの指導に当たる関係者のボランティア活動は、地域社会へよい影響をもたらしているはず。一市民として連盟の在り方がたのもしい限り。

少年野球出身者は今後も増え続け、スポーツを通じて知り合った仲間同士が助け合い、協力し合って、人間として一番大切な相手の痛みを知ること、思いやり、正直、マナーなどを身につけ立派な人間へ成長して行くことだろう。そして、間もなく新しい指導者、裏方さんが続々、登場してくるに違いない。十年を一つの節目に再出発を誓い合う関係者に頭が下がる思いでいっぱいであります。



祝 辞

市川市野球協会会長

松 永 しげる

市川市少年野球連盟が創立10周年を迎えられ10年史を発刊されますことは、野球協会にとりましても誠に喜ばしい限りであり、心からお祝い申し上げますところであります。

貴連盟は、昭和55年2月に発足され、以来10年発展の一途をたどられ、小中学生の健全育成に努力され、年々加盟チームも増加し、当市の少年野球発展に寄与されていることは関係各位のご努力に対し、心から敬服申し上げますところであります。

しかしながら、今日の隆盛の陰には長く苦しい歴史がありました。創立前は、市川市善行会、自治会、青少年指導員会、体育指導連絡協議会主催により開催され、各会ごとに優勝旗争奪戦を行っていましたが、旧市川市第一中学校長小出昭雄氏が青少年課長当時に野球協会と協議し、現在の少年野球連盟として一本化しました。

その当時は、球場の確保と整備、審判員の派遣等で大変な業務を青少年課を事務局としてご苦労されたことが、先日の如く私の脳裡に思い出され、改めて役員始め市職員の方々のご努力に深く敬意を表するものであります。又、競技運営、審判員育成のため日夜研鑽されておられることも見のがせない事実であります。

「青少年の健全な育成」と言う大前提のもと、チームの監督・コーチの方々又選手のご両親兄弟の方々の深いご理解とご援助なくして今日の隆盛は無かったことと思います。野球協会としてもなお一層の協力に努め、共に斯道発展のため手を取り合って活躍しようではありませんか。

願わくば、貴連盟が今後一層のご研鑽を重ねられ、その目的を達せられ更に一層のご発展をされますよう祈念するものであります。

最後に、関係各位の今後のご活躍とご健闘を祈り、ご挨拶にかえさせていただきます。



市川市少年野球10周年によせて

市川市議会議員 小島 武久

この度市川市少年野球連盟が発足以来10周年を迎え、記念誌を発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

「青少年の健全育成」と言う大きな目標を掲げ、浮谷貞雄会長の下、わずか10年という歳月で幾多の困難な道のりを越え、茲に立派な規模と結束の強い連盟に成長された事は、関係者の皆様の並々ならぬ努力の賜ものと心から敬意を表する次第であります。

私も微力ながらお手伝いさせて頂いて来た中で、数々の事柄が走馬灯のように脳裏を駆けめぐります。その中でも姉妹都市「ガーデナ」「台湾」両市への親善試合、読売ジャイアンツの選手を招いての野球教室等々枚挙にいとまがございません。

早いもので発足当時の子供達は成人に達し、社会人として活躍して居る子供達、又中学、高校、大学と一流の野球選手として活躍している子供達が育って行きました。戦後40年が経過した今日、我が国は、目を見張る発展を遂てまいりました。しかしながらこうした急激な経済力の発展に伴い物質的な豊かさが充足され子供達も独善的な協調性のない子供達が多く見受けられます。そういう中で、野球というスポーツを通じ汗と心のふれあいの中で、協調性のある思いやりの心を持った青少年の健全育成に、どうか10年間の歩みをふり返りその上にたって、更に少年野球連盟が益々、充実した連盟に躍進されん事を祈願いたしまして10年誌発刊のご挨拶といたします。



もしもの世界

元青少年課長 小出 昭 維

少年野球連盟の結成10周年、誠におめでとうございます。あの日、浮谷会長の出馬を願っての連盟の発足が、昨日のようによみがえってまいります。故古賀米吉先生とのご相談も、そして当時の市子育会長故尾崎石太郎氏、大富さん、現会長の村井源四郎氏、青少年相談員の役員の方々と、少年達の白球への芽をより確かなものにする為、何回となく夜を徹して語り尽くして発足の運びになりました。

それまで、年齢をかえりみず、少年達の夢を、もしもの世界を汗水惜しまず努められた先人の思

いを、何とかよりたしかなものにと生まれたのが少年野球連盟、その伝統と歴史は更にさかのぼる程の重さがあります。少年の『if』の世界の為に、献身的に奉仕された浮谷会長はじめ、役員の方々、関係者の皆様に心より敬意を表し、益々のご発展を祈念申し上げます。

少年の夢、もしもの世界への挑戦。どの位若い力にはげましになったこの10年間であったのか。問い直しながら、一投一打の瞬間に白球を無心に追う憧れがとめどなく、そして限りなくこめられているのかを考えてほしいと願っております。ifの世界は、可能性に満ちあふれた少年達の世界だと信じております。



市川市少年野球連盟10周年に寄せて

市川市教育委員会管理部長

前 林 終 治

市川市少年野球連盟が創立10周年を迎えるにあたって、心からお祝い申しあげるとともに、浮谷会長を中心に関係役員の方々、特に各大会を支えていただいている審判部の皆様方のご苦勞に深く感謝申し上げます。

「スポーツはハングリーでないとチャンピオンになれない」といいますが、物の豊かさの中で育っていく現代の少年達に、ややもすれば失いがちな、ファイト、ルール、マナーを野球というスポーツを通して指導し、将来の社会に立派に通用する人間形勢を目指すことは、大変な努力が必要です、同時に意義深いことだと思います。

創立当時の少年の中には、ある者は高校時代に甲子園の土を踏んだ経験者も、またある者は大学で活躍した者も居ることでしょう。そして、今、立派な青年として、既に指導者として活躍している人も居ることでしょう。

それにしましても、単位チームの監督、コーチを始め、指導者の皆さんには、自分の休養日、また早朝など年間を通じて汗しての心身の指導には、本当に頭が下がります。

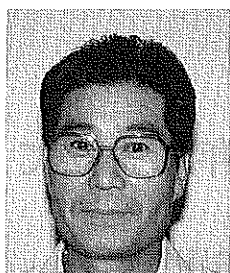
そして、春の選抜大会出場を目指しての地区大会、空模様を気にしながらの梅雨時から30℃を超える真夏過ぎまで続く夏季大会には、本部役員と共に審判、準備、試合の運行など、文字通り東奔西走の2ヶ月であり、私事をなげうって、大会が支えられているものだと思います。

こうした大会を通して、子どもたちの交流が図られ、関係役員のコミュニケーションもまたそれ以上に図られるものだと信じます。

10年といえば、市内の大会だけではなく、東葛地区大会。国内遠征では山梨縣市川大門。また、国際化を反映してのガーデナ市、台湾遠征と幅広い交流の足跡を叩かれたことは、子どもたちはも

ちろんのこと関係者にとっても数々の思い出として残ることでしょう。

地区によっては、児童数が減少し、子ども会そのものの組織があやぶまれている昨今であり、少年野球チームの編成には、大変苦勞があると思いますが、どうかそれらを乗り越えて、少年達のすばらしい親交の場であり、機会である、野球を通して健全育成を、今後も末永く継続されることをお願い申し上げると共に、市川少年野球連盟が、今後20周年、30周年を迎えられますよう、ますますのご発展を希望しております。



少年野球場確保の思い出

市川市教育委員会社会教育部長
露 崎 功

少年野球連盟の結成十周年を心からお祝い申し上げます。

このたび十周年を機会に、これまでの活動と今後の飛躍を図るため記念誌が発刊されますことは、少年野球連盟の発展はもとより、次代を担う子ども達のスポーツ振興のためにも、誠に意義深いことと思っております。

顧みますと貴連盟は、昭和55年に青少年の健全育成を旗印に結成以来、野球によって身体の鍛練はもとより、プレーから培われる連帯感や協調性などの精神を数多くの子ども達に指導されました。

これまでの業績に接するとき、浮谷会長さんをはじめ、役員、関係者の熱意とご努力には深く敬意を表する次第です。

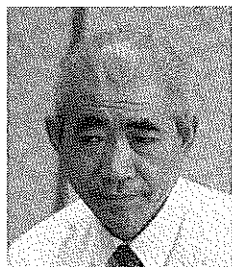
私も昭和56年から2年間青少年課に籍を置きましたが、当時は子ども達が専用できる野球場が少なく、連盟や子ども会の役員会議では、必ずとっていい程、グラウンドの確保を要望されたことが昨日のように思い出されます。そこで私達は、子ども達が安心して使用できる専用球場を確保しようと、休耕地を探してはその借用に奔走したものです。なかでも特に忘れられないのが、妙典少年野球専用球場の確保でした。地元自治会長で土地所有者の一人でもある藤原さん（現妙典土地区画整理組合理事長）を訪ね、子ども達の野球場確保に苦慮している実情を説明し、協力依頼をいたしましたところ、「うちにも孫がいることだし、みなさんのためなら、できる限り応援します」との約束を得ました。

この言葉は、広さに圧倒された私達の気持ちを奮い立たせてくれる激励の言葉となり、土地所有者の説得に役立ったのです。

一名の地主が難問で、その地主さんが藤原さんの熱意と子ども達のために貸しましょうと言ってくれた時の言葉が忘れられません。その夜、藤原さんと交わした乾杯のビールの味が昨日のことの

ように思い出されます。

藤原さん始め地主の皆さん有難うございましたと、紙面を借りてお礼申し上げます。今子ども達の広場に放つ歓声が、野球連盟においても末永く響き続くことを念じております。



少年野球連盟の思い出

市川市立大柏小学校
校長 京 増 整 司

十周年、おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。十年ひと昔といいますが、まことに早いものであります。

私は、昭和53年に青少年課に入り、新設された育成指導係の係長として小出課長のもと、少年広場の増設等に腕をふるわれた管理係長の遠藤さんと共に、少年野球連盟の設立や運営に携わることになりました。少年野球連盟の設立の気運は昭和54年度であったと記憶しています。リトルリーグなど、組織のしっかりしたものは別として、子ども会の主催する大会に参加できないチームや、クラブ的チームを統一していくなかで子どもたちの健全育成、野球技術の向上、指導者の育成を図っていかうということであった。市川市野球協会の助言を受けながら、青少年相談員、子ども会育成会を中心に準備を進め、小出課長の推す浮谷貞雄氏を会長に、私に縁のあった阿部進氏が理事になって連盟の発足をみた。

翌55年7月6日、晴天に恵まれ、国府台球場を会場に第1回市川市少年野球大会開会式が行われた。第1支部より第13支部まで所属チームが、ガールスカウトの皆さんが掲げるプラカードを先頭に堂々の入場行進、その数100チーム2,000人を超える壮観に感激新たなるものがありました。

また、もと巨人軍監督川上哲治氏を招いて「少年野球教室」を開催したことも懐かしい思い出である。各支部より選抜された選手に市内中学校野球部有志を交えて、川上さんが自ら手を取り足を取りしてのご指導をいただいた。川上さんのご指導は単に技術のみに終わらず、子どもたちが「野球」を通して立派な人間に育ってほしいという熱意に溢れ、まわりの指導者たちも大きな感動に胸を打たれた。このことは連盟の在り方に強い影響を与え、今日でも活動の基本方針となっているものと思っている。投球動作の基本としての手首の返しを直接手をとって指導してもらった少年たちは、おそらく一生の思い出として心の支えになっていることであろう。そういう少年たちのなかには甲子園で活躍した選手もいるということも嬉しいニュースとして伝え聞いている。

少年野球を盛んにしたもう一方の仕事には「少年広場」の増設があります。関係市民の熱望に応え、休耕地などを中心に地主さんをお願いし税の減免措置、契約書の作成、造成工事など、管理係

の仕事も裏方を支える大切な働きであった。

私も担当職を辞してはや八年。時折、青少年課を訪れては部屋の正面に掲げられている第1回大会開会式の写真を見るたび懐しく感じています。折しも私の学区「みかどファイターズ」の荻原監督さんより、今夏、連盟より選ばれた4名の選手が台湾を訪れることになった、との嬉しいお知らせを受けました。壮行会をやる予定です。

市川市少年野球連盟のご発展を心よりお祈りしお祝いの言葉といたします。

市川市少年野球連盟 会長 荻原 隆

